



学校だより 7月号

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakawada/>



「危険予知能力を磨く」

校長 山中 卓

早いもので、夏休み前のまとめの時期を迎えました。

土曜参観では、多くの保護者の皆様にご来校いただき、ありがとうございました。子どもたちは、朝から少し緊張しつつも、どこか誇らしげに日頃の学習の成果を披露していました。授業中の頑張りはもちろんですが、特に印象に残っているのは中休みの時間です。校庭や廊下で、保護者の皆様や友達と楽しそうに過ごす子どもたちの弾けるような笑顔を見て、学校という場所が子どもたちにとって安心できる居場所であること、そして何より、保護者の皆様の存在が子どもたちの最大のエネルギー源であることを改めて実感しました。

5年生の宿泊体験学習では、普段の学校生活や親元を離れた環境の中で、子どもたちが一回りも二回りもたくましくなり帰ってきました。非日常の中で、友達と互いに助け合い、自分の役割を責任をもって果たそうとする姿が随所に見られました。この「自分たちの力でやり遂げた」という経験は、子どもたちにとって大きな自信となり、これからの学校生活を支える確かな土台となったことと思います。

子どもたちは、日々の学習はもちろん、こうした行事を通して、本当に多くのことを学び、吸収しています。友達と協力することの尊さ、自分で考えて主体的に行動することの大切さ、そして、困っている人を助ける優しさ。これらの一つひとつの積み重ねで、子どもたちの豊かな人間性を育てていければと思っています。

さて、いよいよ子どもたちが楽しみにしている夏休みが近づいてきました。

長期休業は、学校ではできない貴重な体験に挑戦できる絶好の機会である一方、子どもたちが自分自身の判断で行動しなければならない場面が格段に増える時期でもあります。

私自身、この時期になると、子どもの頃に経験したいくつかの「ヒヤリ」とした苦い記憶が、鮮明によみがえってきます。

川や海、自転車で走行中の出来事ですが、今になって振り返ってみると、これらに共通していたのは、すべて「少しくらいなら、大丈夫」という、私の心の中にあった一瞬の油断でした。全校朝会では、こうした自身の経験を「危険予知能力」という言葉を使い、話ができればと考えています。危険な行動については、繰り返し指導を行ってきましたが、安全管理において最も大切なのは、「危険な状況になってからどう対応するか」ではなく、「事前に危険を予測して、未然に回避すること」です。「これをしたら、怪我をするかもしれない」「あそこは危なそうだから、近づくのをやめておこう」と、自分の頭で一歩先を予測できる力こそが、子どもたちの命を守ります。

また、事故や怪我は、あからさまに危険なことをしている時だけに起きるわけではありません。むしろ、「楽しい時」や「何かに夢中になっている時」ほど、人間の注意力は著しく低下しやすくなります。特に夏休み中、友達と一緒にいる時は開放感から気持ちが大きくなり、普段なら絶対にしないような無茶な行動を勢いで取ってしまうことがあります。だからこそ、そんな時ほど「危険予知能力」という言葉を心に留めておいてほしいのです。これはある意味、学力や体力と同じくらい、あるいはそれ以上に、人生を生き抜く上で大切な能力であると言えます。

ぜひ、子どもたちには、行動を起こす前に「一度立ち止まって考える」習慣を身につけ、自分の大切な命を自分で守れるようになってほしいと願っています。ご家庭におかれましても、この機会に「安全ルール」や、地域の危険な場所について、お子さまと一緒にじっくりと話し合う機会をもっていただければ幸いです。

テレビでは連日、ワールドカップの熱戦が報じられており、ご家庭によっては寝不足や体調管理にご苦労されているかもしれません。これから夏本番を迎え、暑さは一層厳しくなっています。子どもたちには、学校でも指導しておりますように、「十分な睡眠」「バランスの取れた朝食」「こまめな水分補給」を心がけ、熱中症の予防に努めてほしいと願っております。ご家庭におかれましても、ご理解とご協力をお願いいたします。